

<白金標準、リスク重視からファンダメンタル重視へ・・・>



(出所：オアシス)

イスラエルとレバノンの10日間の停戦合意を行い、米国とイランの停戦協議も水面下で前進している。イランのアラグチ外相は停戦合意を受け、「全ての商船にホルムズ海峡は開放されている」と投稿し、WTI原油先物は94ドルから一時80.89ドルまで下落するなど、20日に再協議の憶測も出ており、中東情勢における地政学のリスクは後退している。

そのため米国とイランの停戦協議が合意した場合は、市場の心理はリスク重視からファンダメンタル重視へ移行する動きが強まると思える。特にイラン戦争が開始する以前は、3年連続の供給不足を理由に、白金標準先物は一時13779円まで高値を試している。また5月中旬にはロンドンでプラチナパーティーが開催され、JM社やメタルズフォーカス、WPICのPGM需給報告が発表される。また南アフリカの国営電力会社エスコムは、4月から電気料金を引き上げており、プラチナ鉱山におけるコスト高の動きに結び付いている。

そのため10000円を回復した白金標準先物は、米国とイランの停戦協議が合意し、日本時間22日AM9:00に停戦期限を再延長する様であれば、ファンダメンタルに基づき11000円を上回る値動きを強めて来ると思える。

<テクニカル>

白金標準先物の日足をMACDとRCIで見た場合は、MACDではMACDが維持し、シグナルは上昇している。RCIでは短期が切り下げながら、長期も上昇している。また日足が平滑移動平均線のレンジを上回っており、11000円を上回る事が出来るのか注目されると思える。

レポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 5,125,000 円(2026 年 4 月 20 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 50 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 116,160 円(2026 年 4 月 20 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30)

証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター
<https://www.nisshokyo.or.jp>